

2024年2月9日

 千代田化工建設株式会社  
 総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

## 2024年3月期 第3四半期決算説明会 質疑応答要旨 (2月5日開催)

2月5日に開催致しました、2024年3月期 第3四半期決算説明会(電話会議)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	完成工事高	
	完成工事高の通期予想を上方修正しているが、第3四半期時点で進捗率79%と高い。第4四半期の水準は低下する見込みなのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>上方修正後の通期予想は、第4四半期の工事進捗の見通しを考慮している。</li> <li>足元の為替レートを考慮に入れると、少し上振れる可能性もあると見ている。</li> </ul>
2	完成工事総利益率	
	第3四半期の完成工事総利益率が第2四半期より上昇しているが、背景は。	<ul style="list-style-type: none"> <li>手持案件の着実な遂行による利益貢献に加えて、カタルの過去案件でリスク分担の交渉が決着したことにより採算が改善し、当四半期で一過性利益を計上したことによるもの。</li> </ul>
	業績修正後の完成工事総利益率の通期予想は7.2%と、修正前の7.8%よりも低下しているが、なぜか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>修正後通期予想の低下は、主に上半期にエネルギー分野の一部案件で、リスク管理の一環として、工事進捗を維持するために、想定コストの見直しを行ったことが影響している。</li> <li>但し、利益率の改善は必須であり、全社ベースで対応していく。</li> </ul>
3	トヨタ自動車との水電解システムの共同開発	

#	質問	回答
	両社の役割の違いを教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>トヨタ社が水電解スタックの開発、当社が大規模水電解システム化に係る開発を行う。システム化における設備構成の検討及びコストダウン等については、両社で協力していく。</li> </ul>
	水電解装置の供給先は国内、海外どちらを想定しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内、海外どちらもターゲットとしているが、グリーン水素製造プラントでは安価な再生可能エネルギーの供給が求められるため、海外が主戦場になると想定している。</li> </ul>
4	液化水素サプライチェーンに関する FEED 業務について川崎重工業とエンジニアリング会社 3 社での協業	
	液化水素と同じく水素キャリアの一つである MCH を推進しているとの理解だが、今回の協業の背景は。	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社は、MCH に限らず、複数の水素キャリアのメリットを活かして事業に取り組み、水素社会の早期実現に貢献していく。</li> <li>そのうえで、協業の意義は、液化水素分野で先行する川崎重工業と、豊富な海外でのプラント設計・建設実績と技術的知見を有するエンジニアリング 3 社が、FEED の段階から JV として協業することで、今後液化水素サプライチェーン案件が多数出件していく見通しの中、協業経験を活かし、競争法を含む法令を遵守しながら、複数の液化・出荷基地を同時期に並行して遂行し得る体制を確立できる点だと考える。</li> </ul>
5	社長人事	
	社長交代の意図や狙いは。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024 年 4 月 1 日以降、経営の監督と執行を分離させた新たな体制で、次期中期経営計画のスタートを切るため。</li> <li>三菱商事の現役の常務である太田新社長は、2022 年 6 月より当社の取締役を務め、当社の事業や経営を熟知しており、執行のトップとして非常にふさわしい人物と考えている。</li> </ul>

#	質問	回答
	<p>榊田会長兼社長の社長在任期間の総括をお願いしたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年3月末で、CEOまたは社長として、再生計画5年間のうち後半3年間の執行責任者を務めることになる。</li> <li>再生計画期間を通じて、安定した収益を計上できる体制となり、損益計算書やキャッシュフローは改善し、会社として良い方向に進んでいると考える。</li> <li>一方で、財務的自立は道半ばであり、次期中期経営計画の3年間は「飛躍のためのプロローグ」としたい。私自身は、引き続き会長として、執行をガバナンスしていく。</li> </ul>

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。